
機械の体

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機械の体

【Nコード】

N2578N

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

機械の体を手に入れた。

外見は若い人間の男。

何処からどう見ても他の人間と区別がつかない。

機械の体を手に入れた。

外見は若い人間の男。

何処からどう見ても他の人間と区別がつかない。

老いも病気の心配も無くなった。

持病の腰痛もすっかり良くなった。

体重はかなり重くなったようだが、心はいたって軽い。

仕事も以前の三倍ほどのスピードになり、上司の評判も良い。

そろそろ昇進のお誘いが来てもおかしくないほどである。

それから三十年が経った。

先日妻が先立った。

思い返すと妻は珍しい人だった。

機械の体でもよいという稀な人間はそうそういないだろう。

けれど、私は仕事一筋であまり構ってやれなかった。

それだけが思い残りだ。

いや、彼女の事だからいつまでも現役で仕事を頑張っている私の姿を誇りに思ってくれていたに違いない。

「おい。仕事だ。そろそろ出てくれ」

呼び出しがかかった。

いつもの偵察任務だろう。

私はフライトユニットを取りつけ、いつも通り滑走路から空へ飛び立った。

「なぜあのような旧式のサイボーグが配備されているのですか？」

「ん？ああ、あれは有能だからね。だから置いてある。機械も人も性能だけが全てじゃないってことさ」

「それは平和ボケですか？」

「いいことじゃないか。平和なのは良いことだろ。平和ボケ結構！」

「はっはっはっはっ」
「そっごいですか・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2578n/>

機械の体

2010年10月14日18時57分発行